

グループホームの世話人業務

1. 日常生活支援

- 対人関係・服薬支援・社会的手続き・夕食会・清掃・金銭の使途・年金・生活保護・就労支援・健康管理(成人病)などの相談

2. 連携

- 医療機関・他支援施設・職場・家族・地域住民との連携

3. 入退所の支援

- 支援計画の作成・入居目的の確認と契約・退去後の住居などの支援

グループホーム運営の留意点

1. スタッフの燃え尽き防止

- クライシスコールは管理者に
- 完全週休2日は担保
- 夜間の仕事はせいぜい2日まで
- 孤独にさせない
- 随時メールでも相談に乗れる体制を
- 憎まれ役は管理者に
- 訪問看護に協力依頼

グループホーム運営の留意点

2. 利用者について

- 助け合う・思いやるという価値を共有しあう
- 出張講演を含めた当事者としての開示に誇りが持てるように支援する
- 部屋への見学者をいつでも受け入れてくれるように頼む
- 利用者間のトラブルは多くは職員が介入して話し合いをする

グループホーム運営の留意点

3. 大家・不動産屋に対して

- いつでも連絡が取れ、必要があればいつでも駆けつけられる体制をとる
- 行事などには必ず声をかけ、当会についての理解を深めてもらう
- 細かなことでも報告や連絡を忘れずに、いつも協力者であることへの感謝をし続ける
- 評議委員などを依頼する

アパート確保の困難さ

- 本当に保証人がいないという例は少ない
- 大家や不動産屋の心配は家賃の滞納だけでなく、あらゆる問題を含めたトラブルである
- 必要なのは単純なアパートではなく、ケアのシステムと何かあった時の対応の窓口である
 - 24時間対応できる窓口(携帯の連絡先)の設定

病院との連携

- 病院の立場を理解する
 - 忙しさ、利用者への過小評価、地域に対する理解不足
- 病院に最初から多くを要求しない
- こちらの出来ることを考える
- 出来るだけ、出前サービスを行う
- 中に入れてもらえる機会は逃さず出かける
- なるべく利用者と一緒にいく
- カンファレンスを頻繁に行う
- 成功事例を作る
- 訪問看護になるべく来てもらう
- 結果として病院職員にもエンパワしてもらう

家族に対して

- 20歳過ぎて退院時に家族に引取りを迫るのは酷
- 家族にも生活がある
- 家族に責任や負担を求めない
- 一旦家族の精神的負担を肩代わりする
- 再発入院時に必要なときの同意だけは担保する
- 本人が安定すれば自然に良い関係が必ず復活する

巣立ち会の援助の特徴

- 法人全体で関わっている
- チーム責任者が明確でいつでも連絡が取れ、指示が出せる状態にある
- 1人のケースに2名以上の担当者がいる
関わっているスタッフは数名以上いる
- ピアサポート体制も出来てきている
当事者がこのプログラムの重要な支援者になっている
- 通所訓練期間が6ヶ月以上ある

巣立ち会の援助の特徴

- 病院へ出かける回数が多い(12月60回以上)
- 利用希望者に年齢や入院期間などで条件を付していない
- 24時間電話受付の窓口を設定している(緊急時に対応)15分以内に駆けつけられるスタッフが複数いる
- 地域の関係機関と密接な連絡が取り合える関係が出来ている

巣立ち会の援助の特徴

- いつも住めるアパートを準備している（保証人がいなくても住居提供を行なう）
- 大家さんに障害を開示している
- 近所に仲間が住んでいる
- 夕食会を開いている
- 退院後も継続して支援をする
- 交番と連携をとっている
- 新しい利用者に対して受容的である

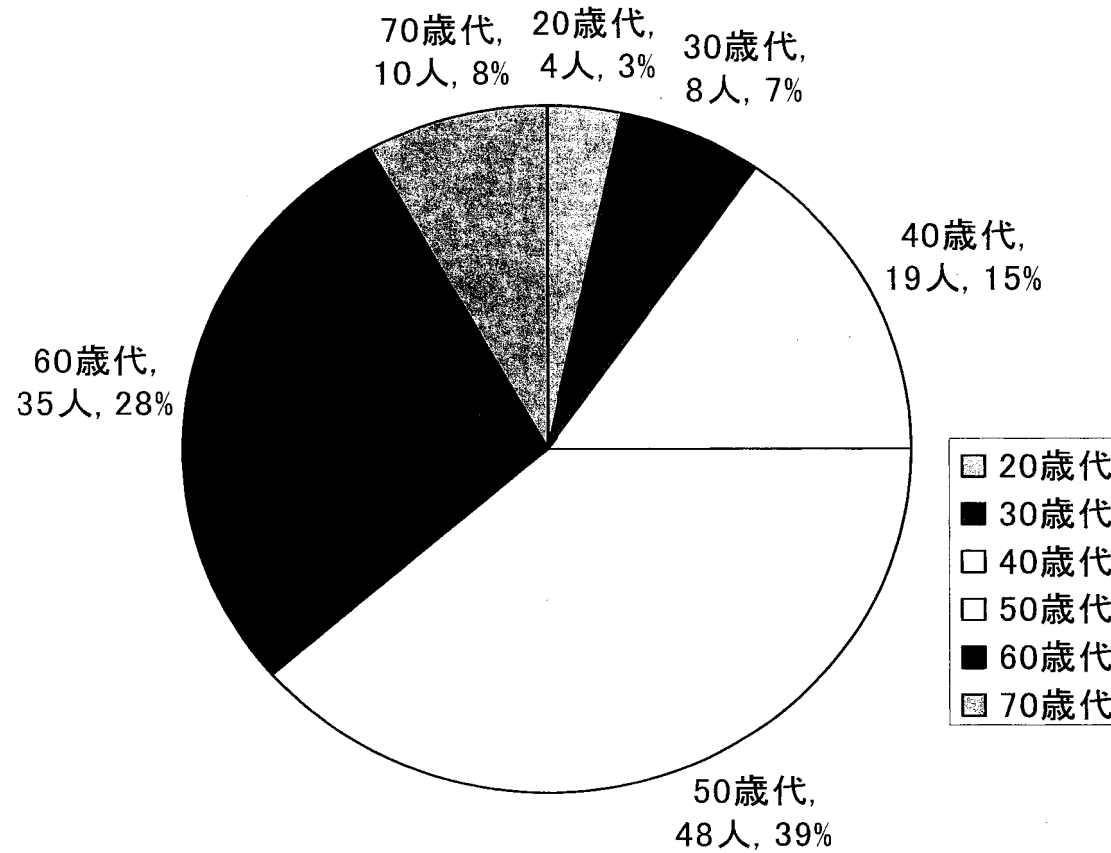
平成16・17・18年度の退院者の現状

	H16年度	H17年度	H18年度
退院者	7	17	22
中断者	—	1	9
平均年齢	47.1歳	48.8歳	50.9歳
男女比	2:5	13:4	16:6
平均入院期間	880日	4373日	3530日
退院までの期間	3.7ヶ月	7.8ヶ月	6.0ヶ月

H19.1.23時点

- **巣立ち会を使って退院した利用者
124名についての分析**

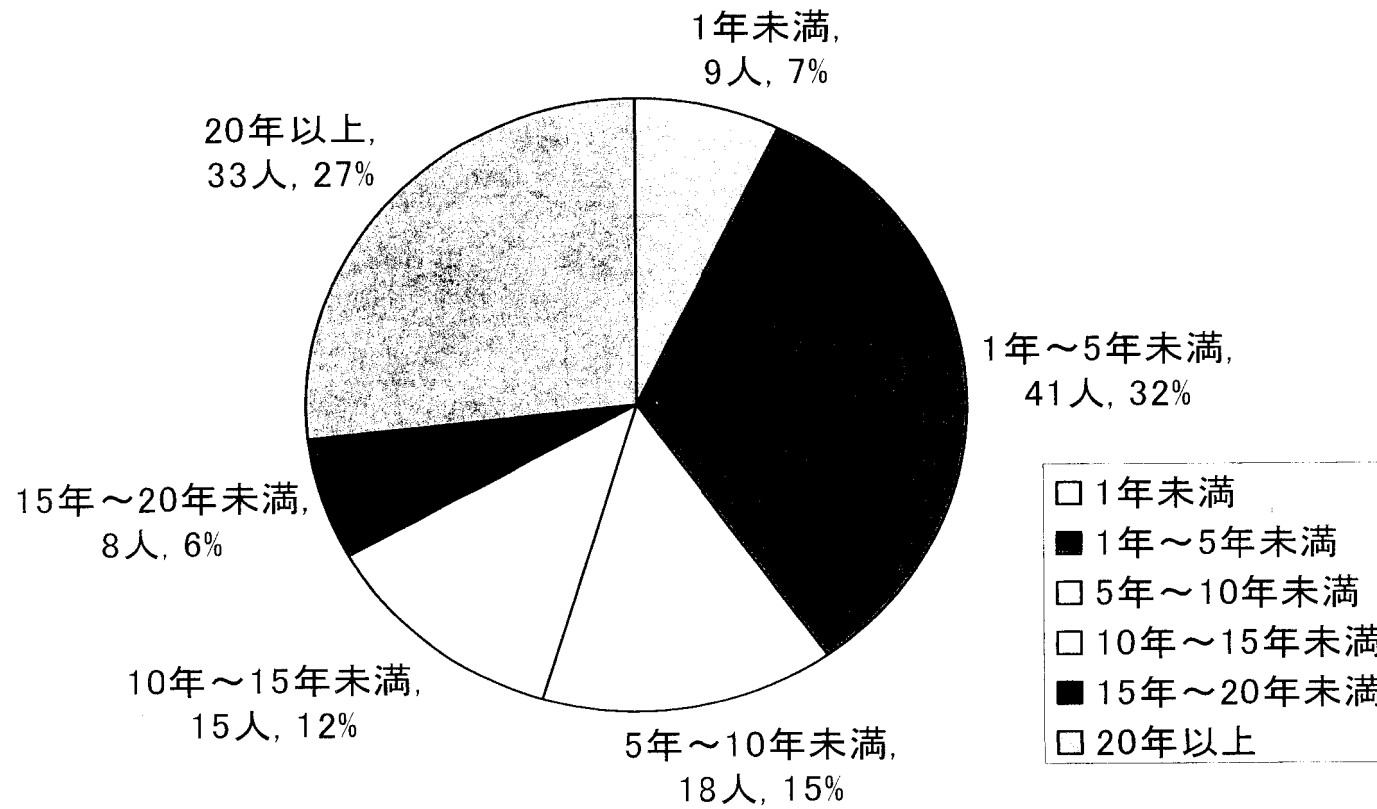
利用開始時の年齢層



n=124

H19.1.23時点

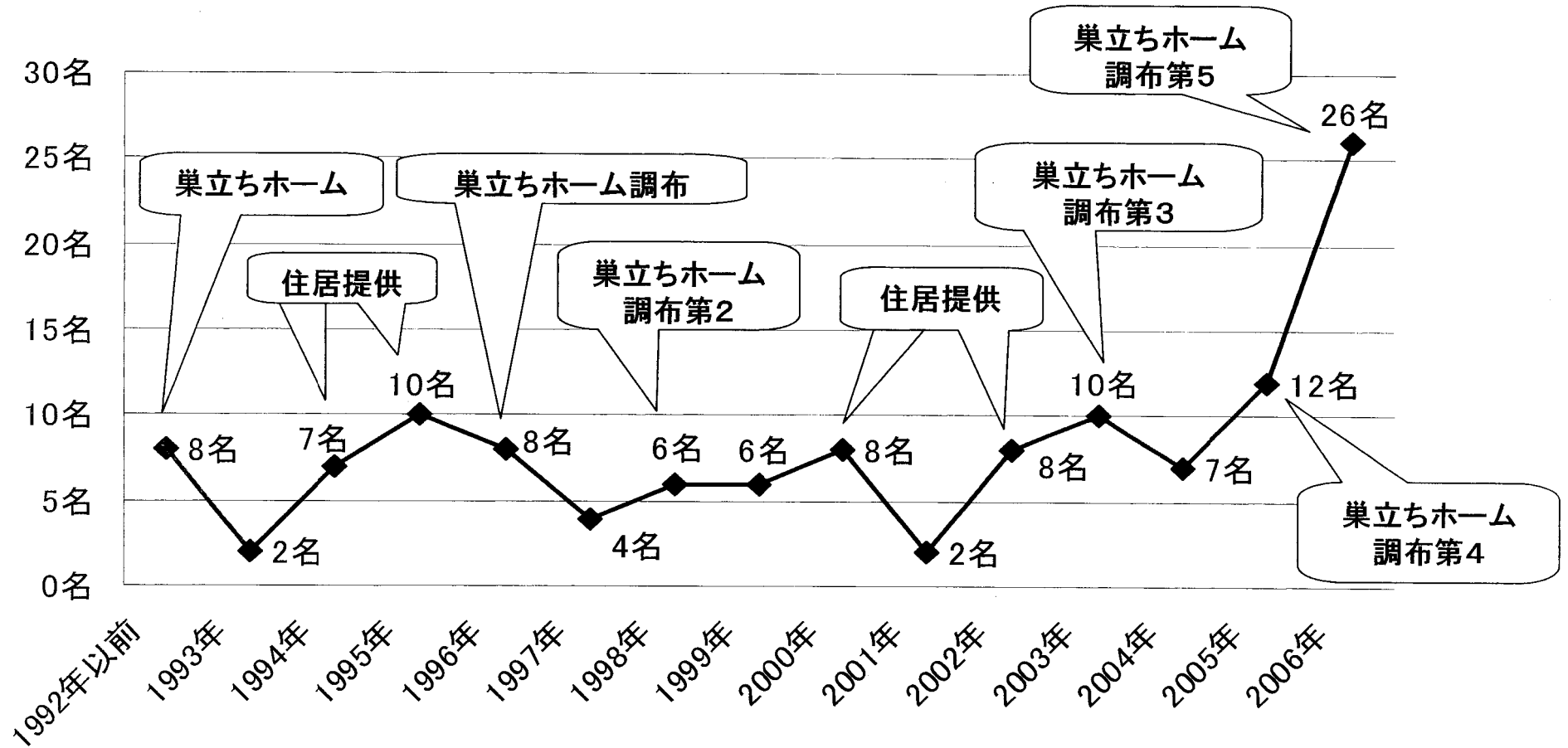
総入院期間



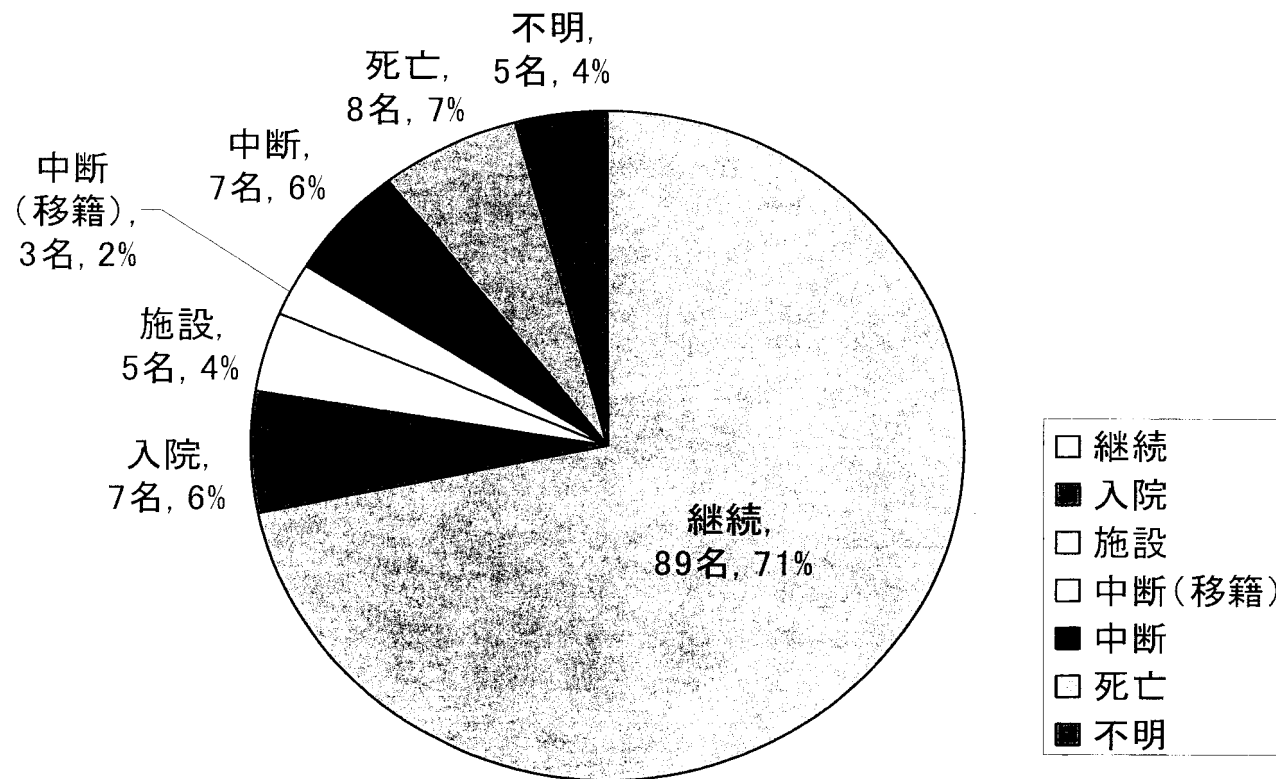
n=124

H19.1.23時点

退院者推移と居住施設開設時期



対象者の現在の状況



n=124

H19.1.23時点

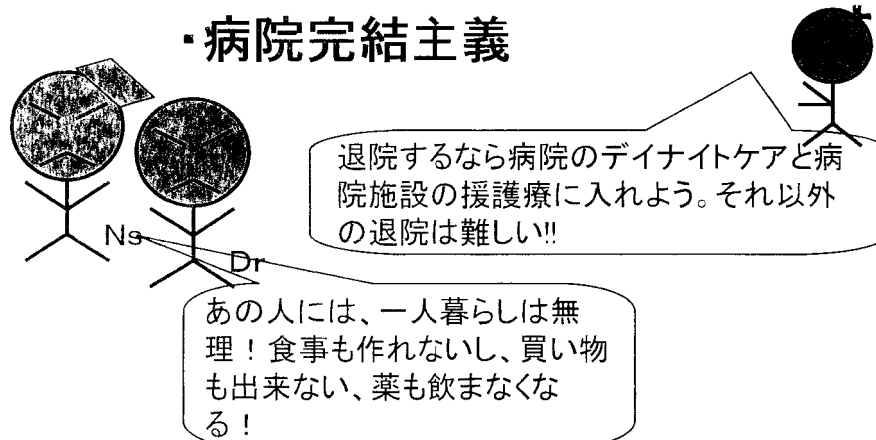
15年間で起こったトラブル

- 火事 2回 1回は煙草の火の不始末
 2回目は幻覚妄想状態での
 自殺未遂
- 自殺 2例
- 痴漢・万引き行為で逮捕
- 飛び降り 1例
- 突然死 2例
- ごみの出し方の注意
- 水道の蛇口の閉め忘れによる浸水
- 幻覚妄想状態などで一週間ほどの行方不明

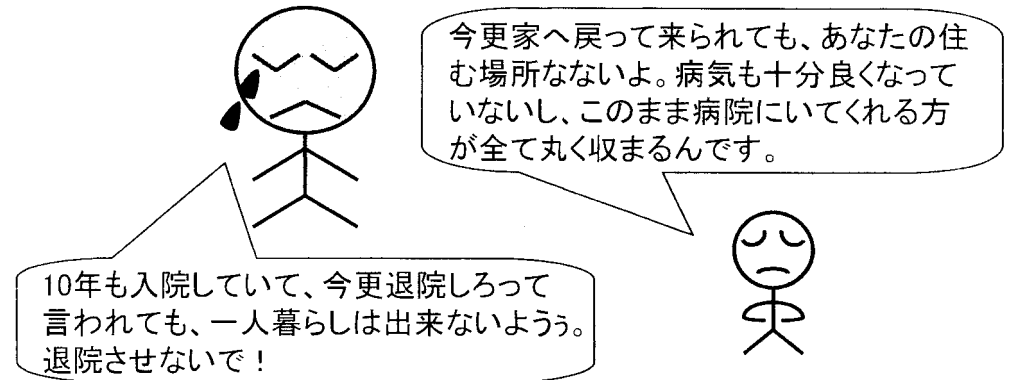
長期入院者の退院促進を妨げている問題

1 医療関係者の誤った認識

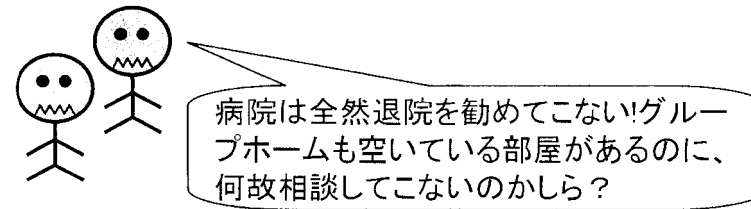
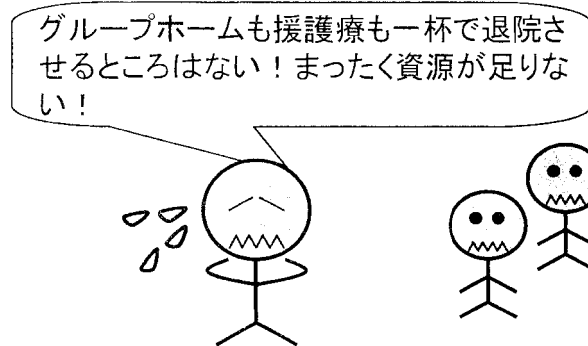
- ・当事者の能力への過小評価
- ・病院完結主義



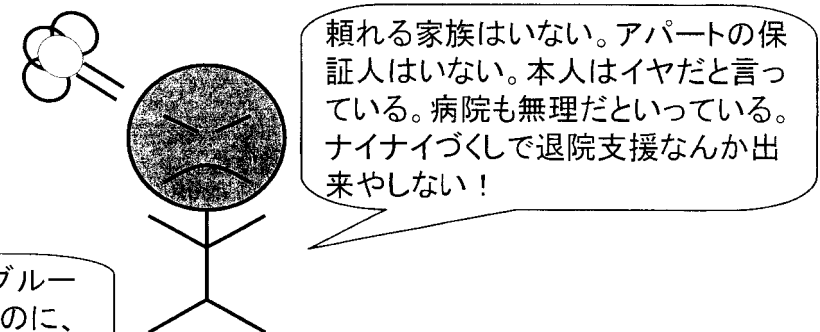
2 本人・家族の抵抗



3 地域との連携の問題



4 退院先確保の困難さ



長期入院者の退院に向けて

- 退院可能だということを具体的に示すこと
- 具体的に退院できる住居を示すこと
- 具体的にそこへ到達するための方法を示すこと
- 具体的なモデルとしてのピアの体験やサポートを示すこと

障害者自立支援法の中での展開

- 障害者自立支援法の一つのポイントは事業収入が出来高制になったこと
- 結果、社会資源が増えたのと同じ効果を持つ
- 多くの利用者に質の良いサービスを提供していく
- その結果が経営的にもつながる
- 一番多くのサービスを必要としている人は病院にいる
- 病院に迎えに行くという姿勢

退院促進につながるのでは？